

大井第一マイ・タウン21

12月号 No.199

発行：編集委員会
住所：南大井1-12-6
大井第一地域センター内
電話：3761-2000
FAX：5493-7286
令和2年11月20日発行

< 町会より >

ーウィズコロナーできることから！

北浜川西町会

世界中が歓喜に沸くオリンピックイヤーのはずだった本年、新型コロナウイルスの影響で社会の景色は一変しました。

私たちの町会活動も例外ではありません。5月の定期総会は書面決議になり、日常活動の清掃・パトロール・回覧板等も自粛。さくらまつり・盆踊り等の行事は中止になりました。

受け止め方や捉え方も人それぞれで、全然気にしない人もいれば、外出するのも怖いと思う人等々、あらためて、多種多様な方々が共生しているのだと痛感しました。

7月に入り“そろそろできることから”と、強制せずに有志で役員会を行い、マスク着用・消毒・距離確保・換気等“3密対

策”を徹底して回覧板やパトロールを再開しました。

9月の「敬老お祝い品」は、毎年皆さんが楽しみにしている重要な行事です。お届けの際は、ドア越し・非対面など皆で知恵を出し合い、無事に行うことが出来ました。多くの喜びの声をいただき、それにより配った方々も笑顔で活動することができました。

ウィズコロナの時代だからこそ、地域の絆を強める町会の重要性が一層増します。

これからも「正しく恐れて」「できることから」益々頑張っていきます。



敬老お祝い品

ラジオ体操

大森駅前住宅自治会

今年も「夏休み朝のラジオ体操」を大井坂下町会の皆様と共催で行いました。

子どもから大人までほぼ例年通りの人数の皆さんにご参加いただき、10日間を無事に終えることができたのは、この状況下



夏休み朝のラジオ体操

において地域住民の意識が高まっているのだと感じました。この場をお借りして改めて感謝申

し上げます。

外で行う行事は密になりにくく油断しがちですが、これからも十分注意を払って地域の皆さんが安心して交流できるよう努めてまいります。

9月は敬老のお祝いと秋の交通安全運動があります。交通安全運動については、春同様テントを張るにとどまりますが、子どもたちの見守り活動もできる限り行うよう心がけてまいります。この先は防犯防災の警戒に力をいれる時期が訪れます。自治会の取り組みについても、季節感を感じられる内容にしていきたいと思う今日この頃です。

コロナ禍、フレイル予防で健康寿命を延ばそう

大井元芝町会

現在、品川区には65歳以上の高齢者が約8万2千人いるそうですが、ご承知のように世界中が新型コロナ感染症拡大で、通常の生活ができない状態です。特に高齢者には感染のリスクが高いわれ、続けている活動が自粛のため中止や延期を余儀なくされ、「フレイル」の状態になるのではないかと心配しています。

「フレイル」とは、健康から要介護へ移行する中間の段階で、加齢に伴う体力の衰え、それに伴い外出が減り、心身のバランスを失いがちになることを言います。フレイル予防には、適度な運動と社会参加が有

効であるため、日常生活に積極的に取り入れて、健康寿命を延ばしたいものです。

さて余談になりますが、私の兄夫婦（兄95歳、妻91歳）は現在、介護付有料老人ホームに入所中で、先日面会の折にホームの感染防止策の徹底ぶりに驚きました。

その一端を紹介すると、手指の消毒はもちろん、全身の消毒と着用していたマスクを廃棄し、施設から配布されたマスクの着用。フロントで検温、ようやく面会となりました。

未だコロナは収束の見通しが立ちません。それぞれが「感染しない」「感染させない」対策を施して、来るべき楽しみの日を備え、「フレイル予防」を怠らず過ごしていただけたらと願っています。

<まちの史跡めぐり>

ご存じですか？南大井の飛行場

NPO法人しながわ花海道

東京の空港と言えば羽田を思い浮かべますが、「東京飛行場」が立川から羽田に移みなみはまかわ転する前、東京府荏原郡大井町南濱川1900番地（現在の南大井1丁目18、品川区民公園前パークホームズ付近）に水上飛行場があり、昭和4年11月17日から昭和6年8月まで下田港を経由し清水港まで定期便が飛んでいました。

現在、空港といえば陸上滑走路ですが、航空事業の初期は飛行場の多くが水上飛行場でした。存在は、昭和5年2月 逓信省告示第260号 飛行場設置許可、昭和7年刊「大井町史」、画家 竹内重雄氏「みなみはまかわえす南濱川絵圖」で確認できます。

昭和6年4月1日、ここから日本初のエアガール添乗定期便が清水に向け飛立ちました。その時のエアガールは140名から

選抜された19

さいえん

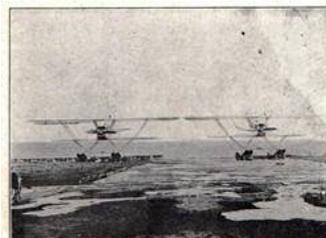
歳の才媛本山英子さん、搭乗客は時の逓信大臣小泉又二郎と令嬢芳江さん（小泉純一郎母堂、進



日本初エアガール添乗飛行

次郎祖母)、大臣秘書官、新聞記者でした。

多くの記録が残っていますが、肝心の地元では記憶が薄れた、当時の一大ニュースです。(文責：理事 野口 健夫)



着水場



飛行場付近の鳥舎

出典：清水港湾事務所広報紙「みなとしみず」第115号（平成26年4月1日発行）、「大井町史」（平成7年刊）